

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 1 報  
千葉県農林水産部  
平成28年5月24日

## 4月20日頃までの移植ほ場は、中干しの実施を！ 4月25日頃以降の移植ほ場は、茎数確保を！

### [ 生育概況 ]

今年の気温は、3月中旬の一時的な低温を除き、平年並みから高い傾向が続き、苗の生育は順調に進みました。

移植後は、4月20日頃までに移植したほ場は順調に生育し、茎数が多くなっています。

一方で、4月25日頃以降に移植したほ場では、4月中旬から5月上旬にあった強風の影響で初期生育の停滞が見られ、生育に地域間差やほ場間差が見られています。特に、苗質不良や移植後に深水となったほ場では、生育の停滞が見られています。

表 1 品種別の生育状況（5月20日現在）

品種	植付時期	平年比※		
		葉令の進み	草丈	茎数
ふさおとめ	4月20日頃	並	やや高	やや多
ふさこがね	4月20日頃	並	やや高	やや多
コシヒカリ	4月20日頃	並	やや高	やや多
	5月1日頃	並～やや遅	並	やや少
ふさのもち	4月20日頃	並	並	並
	5月10日頃	移植直後のため、省略		

※平年比は過去10か年（2006～2015年）の平均値との比較。

ただし、ふさのもちは過去6か年（2010～2015年）の平均値との比較。

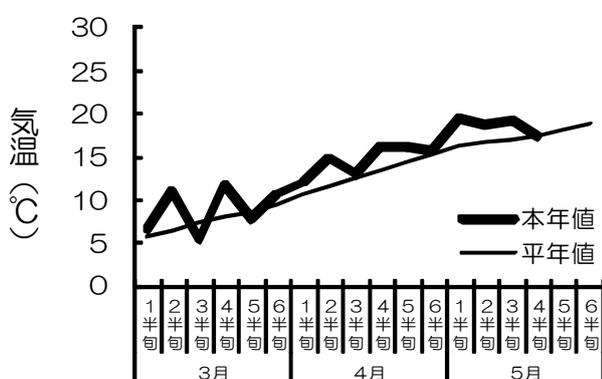


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

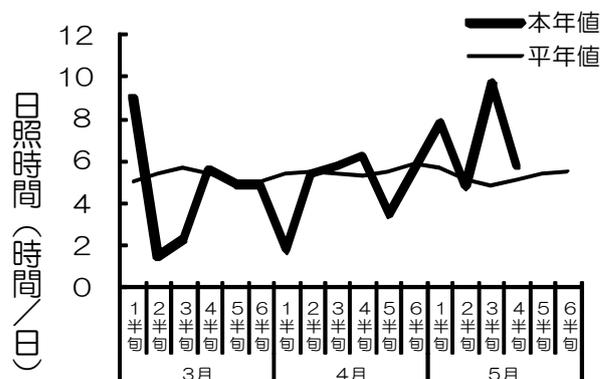


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

## [ これからの管理のポイント ]

### ■ ほ場ごとに茎数を確認し、中干しの適期実施

4月20日頃までに移植したほ場は、中干し開始目標茎数に近づいており、茎数が過剰になる恐れがあります。

茎数過多は玄米品質低下の原因となるので、「表2」の中干し開始時期の目安を確認し、目標茎数に達し次第、中干しを開始して過剰分げつの発生を抑えましょう。特に、「コシヒカリ」は倒伏を回避するため、中干しは適期に実施しましょう。

排水しにくいほ場では、中干し開始数日後に溝切りを行うと効果的です。中干しは強すぎないように、土が湿って足跡が残る程度とします。

4月25日頃以降に移植したほ場では、引き続き浅水管理で茎数確保を図る必要があります。気温が高い予報となっているため、茎数が急激に増加する見込みです。中干しが遅れないように注意しましょう。

表2 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m <sup>2</sup> (27本/株)	480本/m <sup>2</sup> (27本/株)	440本/m <sup>2</sup> (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m <sup>2</sup> (20本/株)	360本/m <sup>2</sup> (20本/株)	360本/m <sup>2</sup> (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/m <sup>2</sup> (18本/株)	310本/m <sup>2</sup> (17本/株)	300本/m <sup>2</sup> (16本/株)
	5月1日	(18本/株)	(17本/株)	(16本/株)

( )内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安  
極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがある

### ■ 害虫の適期防除

病害虫発生予報第2報（農林総合研究センター5月12日）によると、イネドロオイムシやイネクロカメムシの発生量はやや多い予報となっています。イネクロカメムシは被害が拡大傾向にありますので、ほ場をよく観察し、適期に防除しましょう。

#### ○イネドロオイムシ

イネドロオイムシは成虫態で越冬し、5月以降飛来し、成虫、幼虫ともに葉を食害しますが、特に幼虫の食害は大きな影響があります。5月下旬頃の卵塊数が、1株に1卵塊以上の場合には防除が必要です。

#### ○イネクロカメムシ

イネクロカメムシの被害は、生育初期では葉の黄白色斑点、葉先枯れ、株の矮小、心枯茎の発生、幼穂形成期以降では出すくみ穂、白穂、不稔粒、屑米が発生します。イネクロカメムシの発生が多い場合には、成虫飛来期の5月中旬から6月に薬剤防除します。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、6月3日に発行予定です。

# まだ、間に合います。飼料用米に取り組み、経営の安定を！

主食用米として作付けた稲を飼料用米に振り替えて、安定した収入を確保しましょう！

- 民間の在庫見込みは、減少しているが、まだ**200万トンを超える高水準**  
226万トン(平成27年6月) → **207万トン**(平成28年6月)
- 国内の需要量は**毎年8万トンずつ減少**

◆市町村への申請期限は、**6月末まで**です。飼料用米への振り替えは早めに市町村へ相談してください。

◆飼料用米の産地交付金、**国・県・市町村の助成金**が入金するまでの**資金繰り**(肥料・農薬・資材等の経費支払い)については、最寄りのJAにご相談下さい(**低利のつなぎ資金**等をご用意しています)。

## [飼料用米の取組シミュレーション]

### 試算の条件

- ・水田の経営規模 2 ha(全量コシヒカリを栽培、うち0.1haは自家消費分)
- ・生産数量目標(面積換算) 1 ha(転作率40%)
- ・10a当たり収量 535 kg
- ・主食用米販売価格 10,300 円/俵
- ・飼料用米販売価格 600 円/俵
- ・収量は地域の標準単収値とし、535kgと設定(飼料用米はふるい下米も含めて出荷できます)

### パターン1

全量を主食用米で生産

**差 77,000円**

収入額 **174.5万円**

販売価格  
10,300円/60kg  
× 収量10,165kg  
**= 174.5万円**

主食用米(1.9ha)

### パターン2

生産数量目標に従って主食用米を生産し、残り0.8haを主食用米から飼料用米に振り替えた場合

収入額 **182.2万円**

市町村助成	
県助成3,000円/10a × 0.8ha = <b>2.4万円</b>	飼料用
産地交付金(国)2,800円/10a × 0.8ha = <b>2.24万円</b>	
戦略作物助成(国) 80,000円/10a × 0.8ha = <b>64万円</b>	
販売価格 600円/俵 = <b>4.28万円</b>	
米の直接支払交付金 7,500円/10a × 1.1ha = <b>8.25万円</b>	主食用米
販売価格 10,300円/60kg × 5,885kg = <b>101.03万円</b>	
主食用米(1.1ha) + 飼料用米(0.8ha)	

### 飼料米に取り組むとこんなメリットもあります！

#### ○ふるい分けが不要

主食用米と農産物検査の規格が異なるため、飼料用米はふるい分けの必要がありません。このことにより、一般的に収量が2~3%程度増収します。

#### ○立毛乾燥による乾燥調製コストの低減

飼料用米は外観品質が問題とならないので、脱粒の少ない品種では収穫時期を遅らせることにより、乾燥にかかる経費を低減できます。

#### ○水稻共済掛け金が安い

飼料用米は販売価格が低いため、共済掛け金も安い。